

身近な生きもの館における横浜保全種の飼育繁殖について

○桐生大輔、松野紫乃

(公益財団法人横浜市緑の協会 横浜市立金沢動物園)

横浜市立金沢動物園では、「地域のいきものを感じる横浜の森の動物園」を目指し、周辺の豊かな森を活かした取組を行うため、身近な生きものの展示を開始した。市内に生息する希少種で、地域と連携しながら保全を進める動物種として横浜市が定めた「横浜保全種」に区分されたカヤネズミ、ジムグリ、ヤマアカガエル、ミヤコタナゴ、ミナミメダカ（横浜個体群）、ホトケドジョウ（横浜個体群）、ミヤマクワガタ、ヘイケボタルの 8 種を中心に飼育し、横浜市環境科学研究所や市民団体「横浜メダカの会」など外部団体と協働で、各々の動物種に対して飼育展示、普及啓発および繁殖技術の確立を目指して取り組んでいる。カヤネズミは他県産個体を展示目的で飼育しているが 2016 年に市内で行われた環境調査では、巣が確認されているので、今後、まとまった数の個体群があれば市内産個体の飼育下への導入も検討していきたい。ジムグリは横浜市立野毛山動物園で複数回繁殖に成功しており、飼育繁殖技術はほぼ確立している。ヤマアカガエルとミヤコタナゴなど 3 種の魚類は 1 年を通じた日照時間の変化や水温の変化を刺激として繁殖を試みている。ミヤマクワガタは本来標高が高く、気温の低い地域に生息するため、標高が低く、気温の高い金沢自然公園周辺に生息している本個体群は昆虫学的に大変希少である。その個体群の域外保全を行うため、飼育繁殖を行っている。ヘイケボタルは金沢自然公園内で生息が確認できたが、生息域の細い沢が水の枯れやすい場所であるため、域外保全を目標とし、2017 年から飼育繁殖を開始した。横浜保全種とされている種について、その多くが市内での調査があまり行われておらず、情報に乏しいのが現状である。市内の公園や緑地で生息域内保全ができるように、動物園も含めた横浜市の各部署で情報共有ができるようになればと考える。